慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	トーマス、モーアのユートピアと其共産主義的思想（上）
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.4 (1919. 4) ,p.447(1)- 469(27)
JaLC DOI	10.14991/001.19190400-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190400-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

（廣告主へ御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御附記を望む）

英國製防水保證付
クレーヴネット
レーンコート
金三十三圓ヨリ各種陳列
神田區神保町角
東京デパートメントストア
電本局三一四一

三田學會雜誌 第十三卷 第四號

論說

トーマス、モーアのユートピアと其共産主義的思想（上）

高橋誠一郎

一

John Stuart Mill 吾人に說きて曰く、「私有財産制度を攻擊する論者は之を二派に分つを得可し。一は生活及び享樂の物質的資料の分配に對し絕對的平等を企圖するものにして、他は不平等を許容するも、而も之を正義又は一般的便益の原則、又は

想定せられたる原則に基かしめ、現社會制度に於ける不平等の如く、單に偶發的の出來事のみに依らざらんことを期するものなり」。而して以上二種の經濟制度中前者を稱して共產主義と云ふ(Principles of Political Economy with Some of Their Application to Social Philosophy. Book ii. ch. i. § 2.) と。然れども幾多の社會主義者中には社會主義を以て單に其窮極の目的たる共產主義に到る中間の階段に過ぎずと觀ずるものなきに非ず。吾人は往々「人類全般が共產主義の彼岸に到達するの期ありとせんか、そは必ず社會主義の門關を經たる後ならざる可らず」との言を聞くなり(Davidson, The Old Order and the New. p. 94)。遮莫、共產主義は社會を以て財貨生產を目的とせる產業組合と做すの概念を包含するの點に於て、其起原を近代に有するものなり。這般の概念は正にグレータ王 Minos 並にスパルタの立法者 Lykourgos の手に成れりと傳へらるゝ古法制中に於て、將又古希臘哲學者によりて提唱せられたる理想國中に於て何等の役割を演ずる者に非ず。當時に在りて主張せられたる治者階級間に於ける平等なる財富の分配は全然倫理的政治的見地よりして希望せられたるに止り、毫も經濟的立脚地に據ることなし。全人民の間に於ける分配の平等、而して殊に彼等の間に於ける勞働の平等に至りては、縱令、彼等希臘政治家及び哲學者が這個の觀念を體得し得たりとするも、徹頭徹尾彼等の心胸に好感を生ずるものならざりしなる可し。

或者は Homeros の詩篇中に共產主義の證跡を發見し得るものと思惟せり(Esmein, Nouvelle Revue historique, 1890, pp. 821—)。然れども眞に共產主義の證左として認む可き者は極て鮮少にして却て該詩篇に於ける個人主義的精神の顯著なるは明に之を否定するものなり。加之、こは經濟上の理論よりも寧ろ經濟狀態に關する問題なり(Poehlmann, Geschichte des antiken und Sozialismus Kommunismus, 1812. Ss. 20—; Guiraud, La main-d' œuvre industrielle dans l'ancienne Grèce, 1900. p. 37; Souchon, Les Théories économiques dans la Grèce antique, 1898. pp. 135-)。Pythagoras 及び其學徒は古來屢共產主義史上に於て顯著なる地位を與へらるゝも、而も恐らくは κοινὰ τὰ τῶν φίλων なる箴言の誤解及び其學派の間に於ける道德的助力性に關する教義よりして生じたるものなる可し。S. Cognetti de Martiis は之を Socialismo cenobito と呼べり(Socialismo Antico, 1889, 459—.)其最初の典據たる Epicurus (Diog. L. x. 2.) 及び Tauromenium (Taormina) の Timaeus (同 viii. 10.)

は彼の時代を去ること遠くして信頼するに足らず。而してDiogenes Laertius (viii. 10.) Aulus Gellius (i. 9. 12.)' Hippolytus (Refut. i. 2. 12.)' Porphyrius (Vit. Pyth, 20.)' Jamblichus (De Pyth. vit. 30. 72, 168, 257. 等)及びPhotius (κοινά の下に)等、後世の諸家は此傳説を引用し而して之れを流布せしめたり。而も是れより以前に於ける諸書は毫も此を記することなきか、或は又却て彼が學徒の間に於ける私有財產の證跡を示すものあるなり(Diog. Laert. viii. I. 15, 39.)。要するに'Ἀπόλλων の子にして金の脛を有せりと傳へらるゝ彼Pythagorasの言行は幽昏神祕にして今に於て確知し得きもの頗る尠しと雖、彼が眞の共產主義を敎示し若しくは實施せりと推定し得るの資料存せざるが如し(前掲 Guiraud, 7-11, 574—. Souchon, 136-9., Zeller, Phil. Gr. II, i, 1889. 317, n. 1. 參照)

Chalcedon の Phaleas 及び Miletus の Hippodamas によりて提唱せられたる財富分配の新計畫に關しては吾人唯だ Aristoteles の「政治學」によりて其極て概略を知悉し得るのみ(πολιτικά, II. vii., viii.)。Phaleas は市民間に於ける平和を確保す可き第一要件として財產の均等を主張せり。彼は新植民地に於ては平等化は困難なく實施し得可しと雖、國家が既に確立せる場合には爾く容易なるものに非ず、而して此場合に於て所期の目的を貫徹す可き最捷徑は富者は結婚の持參を與へて之を受けず、貧者は之を受くるも與へざるに在りと思惟せり(同 II. vii.)。Aristoteles の所言に據れば Phaleas は全市民に對して資產と等しく均等なる敎育を授け、其欲求をして均等化せんと企てたるが如きも、而も其敎育の性質に就きては言ふ所なし。尙 Aristoteles が「Phaleas によりて提唱せられたる平等化は不完全なり、即ち彼は單に土地のみを均分せんとするも、人は又奴隸、家畜、貨幣及び其所謂動產の夥多なるに由りて富むこと有り得可きが故なり」と言へるに徵するに彼は單に土地所有權のみを擧示したるものゝ如く、而して彼が有ゆる工匠をして公有の奴隸たらしめ、市民の一部を形成せしめざる可きを說けるに就きて考ふるに、彼と近代共產主義との間には一大深淵の存するを認む可きなり。

Hippodamas に至りては更に社會主義的色彩淡きものなり。彼の都市は工匠、農夫及び武裝せる護國者の三階級に分たれたる一萬の市民より成り、彼は又土地を聖用、公用及び私用の三部分に分割し、第一は諸神に對する常習的禮拜を持續するが爲に、第二は戰士を扶持するが爲に之を保留し、第三を以て農民の資產となせり。

彼は更に法を三種に分つ、蓋彼は侮辱、損害及び殺人の三訴訟事項の存在を主張するが故に其他を認むることなし。彼は亦總て不當なる判決を受けたるの觀ある訴訟を上告す可き單一なる終審控訴院を創唱す。そは特に選任せられたる長老を以て構成す。諸法廷の判決は投票石の使用に依りて與へらる可きものに非ずして、各人は各平板を所有し、其上に曾に單純なる罪の宣告を記し、若しくは單純なる放免の場合には空白なる平板を持參す可きのみならず、彼が告訴の一部を無罪とし、一部を有罪と認むる時は仍平板上に之を表す可きものなり。彼は現行の法制を難じて、そは判事をして截然有罪無罪を決定せしむるが故に僞證の罪に陷らしむるものなりと做せり。邦家の利益の爲に發明を行ひたる者は報酬を受く可く、戰場に斃れたる者の子女は公費を以て教育せらる可く、而して長官は總て上記三階級によりて選任せらる可く、斯くて選任せられたる者は公共、外人及び孤兒の利益を注視す可きものなり（同 II. viii.）。

二

若し夫れ Platon が「ポリタイア *Πολιτεία*」に至りては純然たる倫理的藝術品、洞察の上に建設せられたる德の帝國なり（Eucken, Die Lebensanschauungen der grossen Denker, 1911. S. 42.）。彼が倫理體系の基礎を成せる二大原則は第一に何人と雖、自ら進んで不善なるものに非ず（*κακὸς μὲν ἑκὼν οὐδεὶς*）而して第二に總ての人は彼自身の倫理性に於て精神的變化を生ずるの力を賦與せられたりと言ふに在り。而して此「不變的實在界 *οὐσία*」と感覺的物象（*τὰ γιγνόμενα*）生成死滅する變化流轉の世界、*γένεσις*、即ち神性の眞正不變と現實世界の不定假現との最强可能なる對照に於て對置せられたる原則の倫理的表現に外ならざるなり。彼は神性を以て曾に一切萬物の尺度たり、而して至高の善を以て彼が總ての動作の對境としたるが故に、彼自身が完成の典型として認めたるのみならず、等しく唯一眞正なる善の觀念にして、之に比すれば人間が最上の努力及び意想も單に之に對する傾向と近似とに過ぎざるなり。洵に「ファイドロス *φαίδρος*」中に言へるが如く、萬物は圓滿幸福（Summum bonum）と同一性質のものたらんと求むるも、而も仍常に之よりも劣れるなり（Davis, The Works of Plato. 1872, vol II. p. xvi.）。斯くの如くして現實より完全に截斷せられたるの觀ある Platon の「ポリタイア」に現れたる此思想家の放膽なる理論と希臘の社會狀態とは

種々なる脈絡を通じて連絡せるを觀るなり。爰に Platon は猶人間の境遇及び希臘社會狀態の內相に根本的改革の可能性を信ずるなり。此書の第一段に於て吾人は一層擴大せられたる Sokratismus に指導せられたる希臘國家の熾烈なる一改革者としての Platon を觀るなり。國家は爰に個々の靈魂と恒久の平行 Parallelismus の下に、廣義に於ける正義の理想の表明と爲る。這般の目的の爲に有ゆる關係は嚴然倫理的序列に從て形成せらる可く、社會の主要なる職能は精神的生活の段階に準じて明確に區別せらる可く、而して牢乎たる階級に體現せられ、各人は誠意を以て彼が特殊の業務を遂行す可きも、而も總ては理知の統治下に給付の全體を得るが爲に結合す可きものなり。這個全體の勤務より利己的目的に由りて轉向せらるゝことなからんが爲に、上層階級に列る者は私有財產及び家族より脫離せざる可らず、倫理的基礎より生じたる特異なる共產主義は彼が教義を完成するものなり（前揭 Eucken.）。洵に彼が共產主義は其神性に對する目的に非ずして、純然たる教育上の手段たるなり（Ludwig Stein, Das erste Auftauschen der sozialen Frage bei den Griechen, 1895, S. 164.）國內に於ける汝等の總ては正に同胞なり、而も神は一樣に汝等を作製することなかりき。汝等の或者は支配の權力を有す、而して神は彼等の構成に際して金を混じたり、斯くて又彼等は最大なる名譽を有す。他の助力者たる可き者は銀より成り、農夫及び工匠たる可き更に他の者は眞鍮及び鐵より成れり」（ポリタイア III. 415.）と稱したる Platon が有名なる荒唐語に現れたる思想は彼が「共和國」の全般を通じて漲れるが如く、全市民に對し最大限の幸福を確保せんとするに在るなり。「吾人が國家構成に於ける目的は全體の最大幸福にして、而も或一階級のそれに非ず、而して全體の幸福を目的として支配せられたる國家に在りては吾人は吾人が正義を見出すに最も幾庶かる可きを思ひ、而して支配の道を過りたる國家に於ては不公正を認むるなる可し」。「今や吾人は個々に就きて換言すれば少數の幸福なる市民を造るの目的を以てせずして、全體として、幸福なる國家を構成せんとしつゝあるなり」云々と（同 IV. 420.）。而して這般の目的を貫徹せんが爲に僅に直接必要品のみを除外せる、有ゆる生產及び消費財を包含する最も徹底せる共產主義を主張するなり。

即ち第二階級たる文武官は「孰れも先づ第一に絕對必要なる限度以上如何なる

財產をも所有す可らず、彼等は又入らんとするの意ある如何なる人に對しても鎖されたる門鎖及び鐵栓を具へたる私宅を有す可らず、彼等が食用品は單に節制及び勇氣の人たる訓練有る武人によりて要求せらるゝが如き底の物たらざる可らず、彼等が契約は市民よりして其年の失費に充つるに足りて其以上に出づることなき報酬の一定率を受くるに在り、而して彼等は陣營に於ける兵士の如く共同の食事を攝り相共に居住す可し(同 III. 416.)。「而も彼等にして若し彼等自身の住居、土地又は貨幣を要求す可しとせば、彼等は守護者たらずして戶主及び農夫たり、他の市民の同盟者たらずして暴君たるに至る可く、憎惡し憎惡せられ、陰謀を廻し廻されつ、彼等は生涯を通じて外敵よりも遙に强大なる內敵の恐怖に終る可く、而して等しく彼等其人に取りても自余の國家に取りても破滅の秋は近きに在る可し」(同 417. 並に V. 458. 參照)。而して彼は又クリティアス(Critias)中に於て武人が共同生活の狀態を述せり(其 112.)。加之 Platon は其共產論を妻子に及せり。曰く、「是等守護者の妻女は共有たる可く而して彼等の子女も亦共有なる可し、斯くて如何なる親も彼自身の子を知らず、又如何なる子も其親を知らざらしむ可し」と(ポリタイア V. 457.)。一致の支配す可き場所に不一致、分離及び多數を見るよりも國家に取りて大なる惡なく、之を結束して單一たらしむるものより大なる善なし。快樂及び苦痛の共同なる所、總ての市民が同一の機會に於て喜悲する所に結合あるなり。共同の感情なくして單に個々の感情存し、都府若しくは之を構成する者に對して起りたる同一事件に際し、一半は欣喜し他は悲歎するの時、結合は解離するなり。斯くの如き相異は概して「我が物」及び「他の物」、「我が事」及び彼の事なる名辭の使用に就き一致することなきに始まる。最大多數の者が同一物に對し同一の態度を以て meum 及び tuum の語を適用するに於て一致するものは最も善く統治せられたる國家なり(同 462.)。彼は更に進んで男女共同の勞作及び敎育を主張せり。曰く吾人は犬を雌雄に分ち、雄をして出獵せしめ若しくは家畜の見張を爲さしめ、而して雌犬は其狗兒を哺育するが爲に、之と共に勞作すること能はざるものとして家內に留らしむるか」と。又曰く「婦人にして若し男子と同一の義務を有せしむ可しとせば、彼等は同一の敎育を受けざる可らず」と(同、451. 尙以上の主張に就きては同、455 までを參讀す可し)。

斯くの如き所論は一見正に近世社會主義及び共産主義の父母たるの觀なきに非ず、R. Poehlmann の如きは無産階級の發達及び階級爭鬪の發生に關する Platon の説明は近代富人政治の展開する繪畫の有ゆる主要なる特質を抱有するものなりと做し、而して又耶蘇紀元前第四世紀は既に吾人が今や白兵戰を交へつゝある戰鬪の前列戰を行へりと稱し（前掲 Geschichte. I. S. 553. n. 3. u. S, 560.) Pohlenz は彼が其理想國を建設せる基礎は最も峻嚴なる社會主義なりと主張せりと雖、(Aus Plato's Werdezeit, 1913. S. 240.)而も所謂 Platon の共産主義は市民中の少數を抱有するに過ぎざる第一及び第二階級に適用せらるゝに過ぎずして近世社會主義の主として念とする多數民衆は彼の計畫と直接の交渉あることなきなり。彼が理想國に於ける支配階級は毫も生産を行ふことなく、彼等は勞働階級の補助に依りて維持せらるゝなり。彼が共産主義は生産資料の共産主義に非ずして、寧ろ享樂資料の共産主義と稱す可きものなり (Karl Kautsky, Die Vorläufer des Neueren Sozialismus. Erster Band, erster Theil. S. 9.)。加之、Paton が共産主義の本原の動機は全然近代的のものに非ず、其の思想は産業の收益に對し、總ての者をして公正なる配分を確保せしめんとするに非ず。彼は極端なる貧富懸隔の害惡を豫防するの必要を認めたりと雖（ポリタイア、IV. 421-2.）而も其動機は一定階級の物質的利益に非ずして、國内に於ける一致を保ち、市民間の爭鬪より免れ、統治者の瀆職、腐敗及び暴虐に對して備へ（同 III. 415-7. IV. 420-1.）而して可及的有效なる作業を保證せんとする（同 421）痛切なる要求に存するなり。Platon は又民主々義者に非ず、平等は彼の思想中に存することなし。彼は絶對の等差的平等を以て不可能なりと做し、而して若し之を實現し得たりとせば、それは最大なる不公正たる可きを認めたり。彼は眞の平等は比例的ならざる可らず、各人が精密に同一物を收受す可きを要求するに非ずして、各其正當の權利を受理す可きを要求す可きものなることを知悉せり。市民の大多數を包括する彼の第三階級は事實上政治的活動の力を有することなきなり。之を要するに Platon は其共産主義に對し毫も經濟的及び物質的基礎を要求することなく、一の倫理的及び政治的理想として之を表現したるものなり (Trever, A History of Greek Economic Thought. 1916. pp. 54-8. 參照)。

三

ストア學派は自然を以て神性的中心力たる理性によりて動さるゝ諸力の組織なりと觀たり。彼徒は「人間にも亦神性的本性、自然的理性あり。そは彼等を結合に導き人間の行爲と社會とを支配するなり。黃金時代は當初に存在せし所にして、純正なる自然法の行はるゝ限り繼續せり。而も這般の自然法は後世に至りても誤れる人爲法の傍に存在せり。人間の法規は再び之を自然法との調和に導かざる可らず。若し理性によりて有ゆる激情は抑制せられ、有ゆる人類をして一國家を構成せしめ、其内に宛も一都市内に於ける諸家の如くに各個の國家は抱有せらるゝとせば之を實現するを得可し」と倣せり (Schmoller, Grundriss der Allgemeinen Volkswirtschaftslehre. I. 1901. S. 79.)。斯くて此派の始祖 Zenon は「ポリタイア *πολιτεία*」を著し、一種の共產的思想を表明せり。彼の國家は萬人悉く同一の衣服を着し、何等の不自然なる禮節なく、結婚なく、家族なく、聖殿なく、法術なく、學校なく、貨幣なく、亦交易なき、無何有鄕的、無政府主義的なるものなり。Chrysippus も亦、恐くは Zenon と等しく最高永却の法則によつて支配せられ、個人的競合は共同の福利に對する用意の爲に消滅す可き理想的國家を將來に夢想し、家族共產主義を説けるが如し。然れども Schmoller の所謂斯學派の weltbürgerlich=quietistisch=brüderliche, gesellschaftliche Ideal と近代的共產主義の思想との間には甚大なる隔絕の存すること固より言を俟たずして明なる可し。

遮莫、無何有鄕的社會學説は獨り彼等の所有に非ず。Aristotelesの學徒たる Dicharchus は人間が自然と一致して生活せる本原の樂園を叙し、這般の黃金時代に在りては、人類は其食料を動物に依賴せずして、果實を以て活き、而して私有財產の害惡が發達して、人間社會の廢頽を誘起するに至るまでは憎惡及び爭鬪を激生す可き何物をも所有せざるなりと説けり。Isocrates の門下 Ephorus は北部遊牧の蠻民を以て自然に對して忠直にして且正當なるものと倣し、*γαλακτόφαγοι* の生活を頌揚し、彼等が共產主義は家族にまでも及び、而して總ての者は悉く一の同胞を構成するが故に、其恭敬と單純生活とは個人所有權より發生する種々なる社會的害惡を防止するものなりと觀たり。又 Isocrates、Ephorus、Polybius、Ploutarchos 等は古スパルタの社會を以て各市民に十分なる平等と自由とを與へたる完全なる共產主義の典型として之を理想化し、是を以て奢侈、暴富、貧困、内爭、交易及び貨幣欲等の害惡を脫

離し、有ゆる市民は悉く賢明にしてストア主義的獨立 αὐτάρκεια が十分に實現せられたる狀態なりと做せり。他は又浪漫的記述を以て現實に存在せるものとして理想的狀態を描寫せんと試みたり。Socrates の學徒 Theopompus の描ける Μεσόγη の本土は恐らく眞面目なる社會改革の目的を以て成れるものに非ざる可く、彼は曾に理想的共產狀態を想像したるのみならず、不善の鄕土を描寫し、而して Etruria 人の間に存するものと稱せられたる自由戀愛を誇張して敍せり。Abdera の Hecataeus が Κυνεγία はかの Pharaoh 王國の理想化にして、前者に比し遙に眞率なる社會改革案を包含するものなり。此國に於ては征服せられたる有ゆる土地は市民の間に平等に分配せられ、而して地產は賣却することを得ず。人民は營利欲、內爭及び之より結果し來る總ての病患より免れ、理想とする所は最大なる富の增加に非ずして、最高の社會的理想を目標とせる市民の發達なりと做せり。Euhemerus は僧職的貴族によりて統治せらるゝ印度附近の一島嶼に於ける理想的社會の「聖紀 ἱερὰ ἀναγραφή」を錄せり。此處には勞働は著しく尊敬せられ、工匠は僧職的階級に列り、農夫は第二階級に屬し、而して牧人は兵士と同一の地位に在るなり。家屋及び庭園を除き、有ゆる土地及び其他の生產資料は悉く共有なり。土地は集合的に使用せられざるも、而も農夫及び牧人は等しく其收益を共同の消費の爲に共同の倉庫に輸致し、單に農作の秀拔なるものに賞典を賦與するに過ぎざるが故に、貨幣若しくは商業階級を必要とすることなきなり。Jambulus は其「太陽國」に於て、赤道直下に於ける拜日宗徒が一種の樂園を敍して、更に Euhemerus 以上に其共產主義的思想を進めたり。此處には樹木は決して熟せる果實を絕すことなく、而して市民は常に其力と美とを失ふことなし。全般の社會的及び經濟的生活は共產制度の下に在り。有ゆる生產資料の集產制度を認め、而して各人は順次交代に各種の勞作に從事せざる可らず。而して又共產主義は家族にまでも及べり。斯くて常に社會主義的要素を抱有せる希臘の經濟的社會的研究は收益及び生產資料の兩者を包含し、而して種類を異にせる勞作より結果し來る自然的不平等をも平準に歸せしめんことを要求するまでに徹底せる、全市民に對する共產主義に歸結せり（前揭 Trever. pp. 142-5）。

然れども彼等によりて主張せられたる共產主義は個人的利益が公共の福利に

從屬せしめられたる希臘の社會的事實より生じたる自然の結果に外ならず。希臘に於ては政治學は其重要の程度に於て第一位に位する社會科學なり、經濟的研究は單に政治的研究の從物に過ぎず、而して有ゆる人間行動の窮極の目的は善良なる市民を作り出すに在り。國家的干渉若しくは制規は當然の事實として承認せられ、而して價格の設定、嚴重なる穀物交易の制規、貧民の利益を目的とせる富者の絞取及び鑛坑の如き大富源の公有は毫も革命的の思想に非ずして、希臘の社會生活に一般普通なる事實なりしなり。斯くて希臘に於ける理論家の傾向は自ら權力の國家的集中並に誇張せられたる法律萬能の思想に向つて進みたり。而して其間に於ける個人主義的思潮の勃興は愈彼等をして往古の黄金時代に憧憬せしめ、他鄉若しくは將來に於ける理想的狀態を夢想せしむるに至らしめたり。斯くて Platon の社會主義が Pericles の個人主義に對する一の反動として見得るが如く（前掲 Pohlenz. S. 240.）、ストア哲學其者の中には社會主義的思想が個人主義的のそれと奇異なる會流を成せるを觀るなり。キニック學派と等しく其本來に於て個人主義的にして、現世に於て私有財産制度の信者なりしと想像せらるゝ彼等ストア學徒は又將來に於て最早私有財産の必要を見ることなかる可き愛他主義の黄金時代を夢想せるなり。

四

希臘思想と並びて長く且深き感化を歐洲の人心に與へたるものは謂ふまでもなく基督教のそれなり。而して基督教の教旨は亦共産主義的分子を含むものなり。即ち社會主義窮極の目的たる共産主義は基督が山上の垂示に表れたる主張と酷似せる社會經濟の一體形なりと稱する社會主義者在る所以なり（Keir Hardie, From Serfdom to Socialism, p. 36.）。社會主義的見地よりして聖書を研究せるを以て有名なる Ward は基督の教へたる原理に背馳せること、自由競爭の原則に基礎を有する今日の社會制度の如く甚しきものは非ず、基督は曰ふ「汝等は總て同胞なり」と、而して各人にして悉く同胞たらば、かの哲學者輩が各人皆共同の善に對して共働せざる可らざることを吾人に説くの要なかんと稱し（Are All Men Brothers? p. 19）、而して共産主義は聖書と其主張を等しうせりとの所論を確實ならしめんとして「使徒行傳」第四章第三十二節並に同三十四、五節を引用するなり。即ち「信者は皆心

を一にし意を一にして、誰一人其所有を己が物と云ふことなく、凡て之を共に有てり。其中に一人も窮乏者なかりき。蓋は地所或は家を有てる者は其を售りて、其售りし所の價を挈ち來り、使徒等の足下に置く、之を各の用に從ひて分け與へしが故なり」と曰ふもの是なり（Ward, All Things in Common.. p. 5.）。「使徒行傳」は又「信者は皆一處に會りて諸物を共にし、產業と其所有を鬻りて、各人の用に從ひ之を分け與へぬ」（第二章第四十四、五節）なる章句を有し、更に又「其妻サッピラと共に產業を鬻り、其價の幾分を藏し、餘の幾分を挈ち來りて使徒等の足下に置ける」アナニアに對する聖ペテロの叱責を記せり（第五章第一節以下）。而して初期の基督教會は自己の財產を拋棄して、有ゆる物を共有とせる者の例を聖書に就きて示したり。

吾人は以上の外猶新約全書中に於ける共產主義的言說を發見するに難しとせず。「蠹食ひ、銹腐り、盜穿ちて竊む所の地に財を蓄ふること勿れ。蠹食ひ、銹腐り、盜穿ちて竊まざる所の天に財を蓄ふ可し。人は二人の主に事ふること能はず、蓋は此を惡み、彼を愛み、此を親み、彼を疎む可ければなり、汝等神と財に兼ね事ふること能はず」（馬太傳第六章第十九、二十及び二十四節）、「全からん事を欲はゞ往きて、爾が所有を售りて貧者に施せ、然らば天に於て財あらん、而して來り我に從へ」（同第十九章第二十一節）、「誠に爾曹に告げん、富者は天國に入ること難し、又爾曹に告げん、富者の神の國に入るよりは駱駝の針の孔を穿るは却て易し」（同第二十三、四節）並に路加傳第十八章第二十四、五節「是故に我爾曹に告げん、生命の爲に何を食ひ何を飲み、又身體の爲に何を衣んと憂ひ慮ふこと勿れ、生命は糧より優り、身體は衣よりも優れる者ならず乎。爾曹天空の鳥を見よ、稼くことなく、穡ることを爲ず、倉に蓄ふることなし。然るに爾曹の天の父は之を養ひ給へり。爾曹之よりも大に勝るゝ者ならず乎。爾曹の內誰か能く、慮ひ煩ひて其生命を寸陰も延得んや。又何故に衣のことを思ひ煩ふや、野の百合花は如何にして長つかを思へ、勞めず紡がざる也。我爾曹に告げん、ソロモンの榮華の極の時だにも、其裝此花の一に及ばざりき。神は今日野に在りて、明日爐に投げ入れらるゝ草をも此の如く裝はせ給へば、況て爾曹をや、嗚呼信仰薄き者よ。然れば何を食ひ、何を飲み何を衣んとて思ひ煩ふ勿れ。是皆異邦人の求むる者なり。爾曹の天の父は凡て此等のものの必需ぬことを知り給へり」（同六章第二十五—三十二節）、「此世の思ひ慮ひと貨財の惑ひ、又各種の情欲

入り來りて道を蔽ぐに由り、終に實を結ばざるものなり」（馬可傳第四章第十九節）、「人爾の頰の右方を擊たば亦左方の頰を向けよ、爾の外服を奪らば、裏衣をも禁まざれ、凡て爾に求めば之を與へ、爾の物を奪らば、其を亦索る勿れ。已人に施れんとする事は亦人にも其如く施よ。己を愛する者を愛するは何の賞賜あらんや。惡人にても己を愛する者は愛する也。爾曹償さるゝ事を得んと思ふ人に借すは何の賞賜あらんや、惡人も其如く償を得んとて亦惡人に借すなり」（路加傳第六章第二十九—三十四節）「爾猶一を虧く、其所有を悉く售りて貧者に施せ、然らば天に於て財あらん」と云ふが如きは皆是なり。然れども近代の社會主義が社會各員に對して其報酬の絶對的平等を主張するは、洵に Leatham の言の如く、毫も斯くの如き抽象的なる基督教的同胞主義と等しく、神學的形而上の基礎の上に立つものに非ざるなり（Was Jesus a Socialist? p. 5.）。前記使徒行傳の記する所の如きも單に或人々が其財産を賣却して、其賣上高を彼等が貧困なる同胞の間に分ち與へたるを說くに過ぎず。貧民等は疑もなく其受理したる所のものを以て所得として取扱へるものなる可く、古代に於ける所謂基督教的共産主義は固と好意的のものにして唯だ單に慈善心に由つて指導せられるものと見る可く、而して縱令其贈與が强制的に行はれたりとするも、其間に眞個の共産主義の存在を認むること能はざる可し。而してペテロがアナニアに曰へる「地所未だ售らざる時は爾の有ならずや、已に售りたりとも亦爾の權に屬するならずや」云々（同第五章第四節）の言は明に其贈與が强制的のものに非ざるを示すものなり。

若し夫れ聖パウロに至りては再び共産主義的植民地を設けんとすることなく、唯だ「エルサレムの貧しき聖徒」の「大なる貧」を救濟するが爲に各所に財物を集めたるの事實は「羅馬書」第十五章第二十六、七節「哥林多前書」第十六章第一—三節「哥林多後書」第八章並に第九章に見る所の如し。而も是等の章句を基礎として、直に「使徒パウロは社會主義者にして、基督は共産主義者なり」と斷ずるは（Davidson, The Old Order and the New. p. 93.）固より大早計たるを免れざるなり。

教會法（Corpus Juris Canonici）は私有財産を以て末世必然の罪惡として之を許容せんとするの態度を持せり。即ち同法は其初に於て規定して、凡ての人類は二種の法によりて支配せらる。一は自然法にして、他は慣習法若しくは成文法（naturali jure

et moribus.）なり。民法及び教會法は後者の二分岐なり。自然法に從へば私有財産なるものゝ存在することなく、有ゆる物は皆有ゆる人に共有なり（jure naturali omnia sunt communia omnibus）と稱し、第一世紀の後半に於て羅馬の僧正たりし Clemens Romanus は凡そ此世にありとある物の使用は有ゆる人に共通なる可きものなり、而も一人が此は我物なりと謂ひ、他は又其は我物なりと稱して人間の間に區別を立つるに至れるは罪惡なりと做せるの言を援用し（Corpus. Juris. Canonici, Decreti II. causa 12, quaestio 2.）、而して又「吾人が他の財産を侵略せざる限り、吾人が力を盡して吾人の物を保管するに何の不正か是あらんや」と謂へるに對し、聖 Ambrosius の答へたる「無恥なる言かな、汝は我物と云ふか、そは何物ぞ、如何なる祕奥の場所より汝は是を此世に齎せるや、汝が初て此世の光に浴したる時、汝が汝の母の子宮より出でたる時、汝は汝と共に如何なる富を齎せるや」云々の言を掲げ（同 Decreti I. Distinctio 47. c, 8.）、Aurelius Augustinus 亦基督教々理と私有財産との調和の不可能を説き、財産は自然の權利に非ずして、單に國權に基礎を有する後天的の權利なりと論じ（Evangelium Joamis, tract. vi. 25, 26.）從て僧侶は富を所有することを許さるゝことなく、又結婚を行ふこと能はざるも、俗人に對しては末世必然の罪惡として之を許容し、貧民の爲に之を領有し、而して貧民及び彼等に對する施物分配者として僧侶に其富を與ふ可きものと做せり。

然れども歴代の聖諭中には彼の Gregorio 大法王のそれの如く（「人の現れ、形造られし土は人々共同の所有に屬す可きものにして、斯くて土の成育せしめたる果實は無差別平等に各人に屬せざる可らざることを人々に知らしめん」）近代の社會主義者をして讃美し引用するを禁ずる能はざるもの少なからず（Ward, All Things in Common. p. 1.）。而して前記路加傳第十八章第二十二節に動されて貧困の祈誓を立てたる Assisi の Francesco. は特に現世の富を蔑視し、時の勢力階級に對抗して一種の共産論を主張せり。而して Pietro Giovanni de Oliva は單に日常の生活に必須なる食物及び神事に使用せらる可き物品、日讀祈禱書並に法衣の使用のみを社中に許し、メンディカン派の托鉢僧は基督も使徒も無一物なりと稱して財産權を非難し、John Wyclife, John Huss, Jean Petit 及び再浸禮教徒は皆福音書の教理を恢復せんと努めたり。然るに實際經濟上の必要に應じ福音書の教理を調和せしめんとするの

努力は既に敎父時代に於て亞歷山の Clemens が其著 Quis divis Salvetur? に於て試みし所なるが (cap. XI—XIV.) スコラ哲學全盛の時代を代表して立ち、中世紀の思想界を征服せるの觀ある Aquino の Thomas は古來私有財產に關し幾多の敎父によりて說かれたる意見と直接背馳することなくして私有財產の制を正當視せんとせり。先づ彼は第一に從來一般に認められたる自然法なる文字の意義を離れ、絕對に自然なるものと、結果より觀て自然なるものとの間に區別を置きて說明を下し、第一の意義に於ては一農圃が或者の所有に屬し、他に屬せざるの理由存することなしと雖、而も第二の意義に於ては此種の所有權は正に其土地の有利なる耕作並に其收益の平和的享得に取り、如何に必要なるかを考察する時は之を自然のものと稱するを得可し、加之、自然法は私有財產を否定するを意味するものに非ず、單にそは其觀念を輸入せざりしに止る、而して之が輸入は人知の發明に係る人爲法に基くものなりと倣せり。次で彼は Aristoles の學說に準據して、私有財產の有利なる結果を指摘し、而して財產は別個に之を分有す可きも、而も共同の善の爲に使用せらる可きものなりと謂へる彼の箴言に於て敎父等の意見と一致するの觀ある區別を見出したり (Summa Theologice, Secunda Secundae. Questiones 77, Articulus I. 2.)

一千五百十六年を以て Louvain に生れたる Sir Thomas More が De optimo reipublicae statu deque nova insula Utopia libellus vere aureus. は一面に彼の時代に於て英國に勃興し來れる希臘語及び希臘文學研究の結果なると同時に、他方に於てはスコラ學派の空虛なる研究を排して端的に基督敎の敎旨を捕へんとするの憧憬に發し、當時の英國々情と著者一身の特殊の事情に促されて成れるものなり(因に記す Utopia 即ち ou-topos 若しくは eu-topos は「何處にも無し」又は「好き場所」と云へる轉訛せる希語なり。本書は初め羅典文を以て草せられ、次で一千五百二十四年獨逸文に、同四十八年伊太利文に、五十年佛蘭文に最後に一千五百五十一年 Ralph Robinson によりて英語に反譯せれて倫敦に出版せられたり)。吾人は先づ More 其人と其時代とを觀ざる可らず。